第12回

静岡県青少年赤十字
100文字作文コンクール

はじめに

青少年赤十字は、赤十字の精神に基づき、「子どもたちが、やさしさと思いやりの心を育むとともに、主体的に行動できる子どもたちを育成すること」を目的とした事業です。

その一環として、今年度も本コンクールを実施し、児童・生徒を対象に次のテーマで「短作文（１００文字作文）」、原稿用紙３枚程度の「作文」を、園児を対象に「ハートラちゃんのお絵かき」を募集しました。

テーマ

「いのちや健康の大切さについて体験したことなどを通じて感じたこと、考えたこと」

「何かをやり遂げた時に感じたこと、考えたこと」

「誰かのために自分ができること」

その結果、「短作文部門」では39校１，６２８点、「作文部門」では11校１１８点、「ハートラちゃんのお絵かき部門」では３園69点の応募をいただきました。

この度、入賞作品を、作品集としてまとめました。そこに表現された一人ひとりの素直な思いや生き生きとした姿を感じていただければ幸いです。

今後も、作品に込められたやさしさと思いやりの心を大切にし、時代の変化に即して、一人ひとりが、「気づき」「考え」「実行」していくことを期待しています。

応募にあたり、ご指導いただきました先生方、見守ってくださったご家族の皆様、審査いただきました選考委員の皆様に心から感謝申し上げます。

日本赤十字社静岡県支部

100文字作文部門

支部長賞（小学生）

「うまれたとき」

島田市立島田第四小学校　一年
岩倉 楓

ろくがつじゅうろくにちにいもうとがうまれたよ。あたまをよしよししたら、このこがわたしのいもうとなんだよっておもったよ。これからいもうとのいのちをたいせつにしたいってきもちがしたよ。

選考委員による講評

生まれてきた妹への温かな気持ちが、真っ直ぐに伝わってくる文章です。頭をなでて実感した命の尊さや大切さにしたいという優しい思いに、読んでいる私達の心まで温かくなります。
これからも、かわいい妹とたくさんの思い出を作ってくださいね。

支部長賞（中学生）

「人ごみの中の募金箱」

沼津市立第二中学校　三年
伊藤 愛莉

この前東京へ行った。多くの観光客が行き交う場所にその募金箱はあった。アフリカの子供たちに向けてのものだ。百円玉をとり出す。

「あれ、入らない。」

それは人々の優しさでいっぱいだった。私は別の募金箱をいっぱいにしよう。

選考委員による講評

募金箱がいっぱいだったことから、人々の善意に「気づき」、別の募金箱をいっぱいにしようと「考え、実行する」姿が、目に浮かびます。伊藤さんの視点の鋭さや感性の豊かさが、100文字という制限の中でよく表現されていました。

支部長賞（高校生）

「笑えない戦争」

静岡県立浜松大平台高等学校　三年
横井 心

私は、敵を倒す高揚感が得られるから、戦争ゲームが好きだった。

一年前、本物の戦争が始まった。遺体にすがりついて泣く遺族や親を失った子供の映像が連日メディアで報道された。私は、大好きだった戦争ゲームをアンインストールした。

選考委員による講評

昨今の社会情勢を反映し、「戦争」や「いのち」、「平和」をテーマにした作品が多い中、ゲームというアイテムを通してリアルな高校生の感情を表したこの作品に、高校生らしい瑞々しい発想力を感じることができました。

指導者協議会長賞（小学生）

「動物の自由」

静岡サレジオ小学校　五年　後藤 大知

猫が殺処分されていることをテレビで観た。面倒を見る人間がいないという理由だけで殺される。ひどすぎる。動物にも自由に生きる権利がある。僕は祖母と猫を保護して里親を探す活動を始めた。うちにも二匹、家族が増えた。

指導者協議会長賞（中学生）

「ヘアドネーションの効果」

沼津市立第二中学校　三年　厚見 楓

長い間私を輝かせてくれた髪が知らない誰かの生活を飾って、笑顔にさせる。そんな顔を見た人もつられて笑顔になる。私のたったひとつの行動でたくさんの笑顔を作り出せることを誇らしく思い、私も笑顔になった。

指導者協議会長賞（高校生）

「君と私のランドセル」

静岡県立田方農業高等学校　二年　佐々木 茜音

学校に行きたくても鞄がなくて行けない子の役に立ちたい。そう思いランドセルを寄付した。思い出がつまった大切なものだけど、誰かが使っているのを想像すると、うれしくなった。私のランドセルで1人でも多く笑顔になれますように。

有功会長賞（小学生）

「小さな事から大きな事へ」

静岡市立清水興津小学校　六年　本徳 楓愛

おふろ洗いに靴並べ。困っている人に声をかける。ごみを拾って捨てる。私に出来る事は小さな事だけど、きっとだれかの大きな助けになるはず。だから、私に出来る事を一つずつして行こうと思う。私のために、だれかのために。

有功会長賞（中学生）

「初盆」

三島市立北上中学校　三年　丸山 大河

昨年の夏、優しくて大好きだった祖母が亡くなった。いつも美味しいご飯で僕を迎えてくれた祖母を、今度は僕が供膳を作って迎えた。大変だったけど、誰かの為に作る楽しさが分かった。来年、祖母がまた帰って来てくれる時が楽しみだ。

有功会長賞（高校生）

「勇気ある行動」

静岡県立浜名高等学校　三年　坂口 実優

「席どうぞ、座ってください。」

旅行の時、母がお年寄りに満員バスで声をかけた。当たり前のように行動する母を真似して、自分も声をかけた。心臓がバクバクした。しかし、「ありがとう」の一言で一瞬で心が温まった。

事務局長賞（小学生）

「かわいい命」

焼津市立港小学校　五年　大石 暁音

去年の秋、妹が生まれた。とってもとってもかわいい。お母さんが言った。

「かわいいと思えるのは、あなたがかわいがられてきた証拠だよ。」

妹もぼくもかわいい命。みんなかわいい命。

事務局長賞（中学生）

「尊き命」

藤枝市立岡部中学校　三年　小林 蕗音

三月十一日に誕生した小さな命。私の腕にすっぽりおさまる小さな体。必死にママを探すママに似た目。泣いたり笑ったりしてくれるお口。全てが小さく愛おしい。抱っこする度に成長を感じ、健康だとわかる。尊い命よもっと大きくなーれ。

事務局長賞（高校生）

「誰も一人じゃない」

静岡県立田方農業高等学校　三年　土屋 咲希

「言葉はいちばん鋭い凶器になる。」

よく聞く言葉だ。それでも世界は変わらずに言葉の凶器というモノを上手に操る。

「大丈夫、気にするな。」という声はもう届かなかった。星になったとき、悲しむ声は上がる。

優秀賞

「私の夢」

静岡市立田町小学校 六年
佐伯 月子

「動物に関わる仕事がしたい。」

それが私の夢だ。

ずっと興味を持ち続け、人と動物の問題を知った。乱かくされ、個体数が減ると絶めつしてしまう。心に残った真実だった。そして私は、生物達が共に歩むため、夢への思いを強くした。

「ともだちのためにできること」

焼津市立焼津南小学校 一年
鈴木 詩織

わたしは、ともだちがこまっているとき、しっかりはなしをきいてあげます。ともだちのことをかんがえて、じぶんだったらどうするか、なにをしてあげることができるかをかんがえて、てつだってあげます。みんな、えがおでいてほしいです。

「私のお兄ちゃん」

静岡市立清水駒越小学校 五年
堀 陽菜

私のじいじの家にジロという犬がいた。私が生まれる一年前にやってきたお兄ちゃんだ。いつも優しい目で見守ってくれていた。そんなジロが2カ月前に死んだ。伝えたいことはやまほどあるけど、

「ねぇジロ今まで本当にありがとう。」

「命の価値はみんな同じ」

焼津市立豊田小学校 六年
横田川 さくら

時々、自分より小さな生き物をいじめている人がいる。それを見て私は思った。

「なぜいじめるのだろうか。」

「なぜ命の大きさがちがっても価値は同じだということに気付かないのだろうか。」

と。

「え顔」

島田市立島田第四小学校 四年
松浦 楽

コロナが四年も続いて大変でした。どこへ行くにもマスクをして、みんなの顔もはっきり見えなかったけど、マスクを取ると友達の顔が見えて、同じ話でもえ顔や、わらい声が聞けて、うれしい時間がふえました。今を大事に生活したいです。

「ばあばをたすけようとした時」

島田市立島田第五小学校 四年
杉本 司馬

ぼくのおばあちゃんはひざがいたくて病院に行きました。一時間たって帰ってきました。ぼくは、「大丈夫?」と聞きました。おばあちゃんは「水をぬいただけだよ。」と言いました。その時ぼくは、「よし、おばあちゃんを助けよう。」と思いました。

「自分の力を信じて」

島田市立島田第四小学校 四年
藁科 伶伊

「やった!!ぼくが全校合唱のばんそう者だ。」

楽ふをもらってから、本番までたった二週間。それに初めてのばんそう。不安を感じたが、自分の力を信じて練習した。本番は大成功!

その日から、ぼくは、ピアノが大好きになった。今までよりも…

「カメの飼育」

御前崎市立御前崎小学校 六年
吉村 理玖

ぼくは小学校でカメを育てていました。どんどん成長していくカメを見て自分はうれしくなりました。そしてカメの命をつなげるため、海へ放流しました。自分達で育てたカメがまた命をつないでいくと思うと達成感がすごく感じられました。

優秀賞

「ままへのかんしゃ」

菊川市立内田小学校 二年
前堀 摘紀乃

わたしは、おかあさんにたいせつにそだてられてうれしかったです。

わたしが二百八十日もままのおなかですごしていたのがうれしかったです。

ままのおなかにずっといて大きくなったのがうれしかったです。

「僕を助けてくれた人」

浜松市立北浜小学校 六年
川田 真しろ

「だいじょうぶだよ。」いつも笑っている先生が今日は真面目だった。僕は肺炎になりかけて意識は今にもなくなりそうだった。でも、お医者さんのなるせ先生のおかげで良くなった。だけどなるせ先生は東京に行ってしまった。

「また、会えるかな。」

「落とし物」

菊川市立小笠東小学校 四年
平松 楓翔

ぼくは、家族と買い物に行ったとき外でハンカチの落とし物を見つけた。そしてぼくは、近くにいた店員さんに落とし物をわたした。

「ありがとう。」

と店員さんが言った。ぼくは、「もち主が見つかってほしいな。」と思った。

「他人のことも自分のこと」

浜松市立赤佐小学校 六年
板津 亜唯斗

ぼくの周りで困っている人の手助けになりたい。その思いから、ぼくは、困っている人を見たら声をかけます。ぼくは、不安症なのでみんなが不安な気持ちにならないように、周りをよく見てすごしています。そして、笑顔を見たいです。

「おかあさんはかんごしさん」

浜松市立三ヶ日東小学校二年
嶋崎 朱莉

わたしは、おかあさんと、たおれていたおじいさんをたすけたことがあります。わたしはさいしょこわかったけど、おかあさんは、すぐにおじいさんにこえをかけていてすごいとおもいました。わたしも、おかあさんみたいになりたいです。

「かぞくがふえたよ」

浜松市立三ヶ日東小学校二年
大野 保風

ぼくには、去年おとうとが生まれました。はじめておなかの中のしゃしんを見たときはまめつぶだった赤ちゃんが、ままのおなかから出てきたときは、すごくうれしかったです。

ぼくは、かぞくになったおとうとを、まもりたいと思いました。

「動画製作の裏側」

三島市立北上中学校三年
笠原 千愛

保健委員長として熱中症対策の動画を作った。キャラクターに声を当てる新しいスタイルで。保健委員の仲間は積極的に協力してくれた。動画を見た人から「面白かった」と言ってもらうことができた。委員長をやってみてよかったと思った。

「一つの命」

沼津市立第二中学校三年
鈴木 優彩

胸に手を当てる。私の心臓はドクンドクンと動いている。喜怒哀楽の全てを共に体験してきたこの体。まだまだこの先も新しい何かが待っている。これからも共に過ごせるように。たった一つの命だから。

優秀賞

「未来へのバトン」

焼津市立東益津中学校 二年
立田 千遥

私の祖父は、戦時中に生まれた。祖父の母は祖父を背中に乗せ、爆弾が落とされる中、必死に逃げた。わが子の小さな命を守るために。そのおかげで祖父に今がある。そして、私にも今がある。このように、命は未来へバトンをつないでいる。

「たくさんの思いやり」

藤枝市立高洲中学校 二年
工藤 莉美

私は、足を怪我して松葉づえで過ごしていた時期があった。みんなが助けてくれるなんて、教科書の中だけの話だと思っていた。

それは現実になった。私は驚きつつも、笑顔になっていた。

私も、みんなに恩返しをしたい。

「命をどう見るか」

藤枝市立高洲中学校 二年
金子 蒼輔

人は命を簡単に見ている。見た目が気持ち悪いだけで幼虫を潰し思いっきり笑い、喜ぶのだ。どの生物もかえがえのない命を大切にしているのだから命を無意味に奪ってしまってはいけないのに。人は命を簡単に見ている。

「私に出来ること」

掛川市立大浜中学校 二年
市川 春乃

私が誰かの為に出来る事、したい事は、明るい挨拶と元気付ける声掛けです。「お疲れ様」「おはよう」この二言で元気が出て励まされました。頑張ったけど上手くいかなかった時や落ち込んでいる時明るい言葉がとても、嬉しかったからです。

「忘れてはいけないもの」

吉田町立吉田中学校 二年
増田 夢唯

私は笑顔でいたいのに笑顔でいられない人のために、一人でも沢山の人が笑えるように、笑顔を心がけている。

私は友達が暗い顔をしていたら、声をかけるようにしている。みんなにとって笑顔は忘れてはいけないものだ。

「一人一人の命を大切に」

浜松日体中学校 二年
鈴木 唯乃

「ラーゲリより愛を込めて」という物語を読み、命の大切さを実感した。人間の手によって多くの命が奪われた。とてもおそろしいことだ。一人一人が、一人一人の命を大切にすることができる世界になってほしいと願う。

「善意の連鎖の出発点」

吉田町立吉田中学校 二年
関 斗真

僕が誰かのためにできることは数え切れないほどある。荷物を持つのを手伝うなどの、目の前で起きていることへの小さな善意。それを積み重ねていくことで、他の人にも善意が芽生える。だから、善意を広げるのを意識して、生活したい。

「初めての大会」

静岡県西遠女子学園中学校 二年
北山 莉瑚

心臓がドクドクで足が震えていた私の陸上部初めての大会は無我夢中で走りました。結果は残念でしたが、私は達成感でいっぱいでした。緊張を乗り越えた私はまたひとつ経験で強くなり、次の私が楽しみになりました。

優秀賞

「学園のため、みんなのために」

静岡県西遠女子学園中学校 一年
鈴木 萌々華

私たちバレー部は、朝早くに登校をし、学校内の掃除をします。この意味は、綺麗な正門でみんなを迎え入れたいという思いでやっています。掃除をすると必ず「ありがとう」という言葉が返ってきます。これが一番のやりがいです。

「生きる意味」

静岡県立田方農業高等学校 三年
松﨑 花奈

この世界から消えたいと何度思っただろう。そんなときに下を向いて歩いていると、小さな体で力強く咲いている花を見る。この花はきっとすぐ枯れてしまうのかと思うと「命って尊いんだな。」と気付く。私はまた、一歩一歩前に進んでいく。

「誰かのために自分ができること」

静岡県西遠女子学園中学校 一年
寺田 梨乃

私は、電車とバスで高齢の方や障害者の人が困っているのをよく見ます。でも声を掛けることができませんでした。でも夏休みに、先輩と同級生と、高齢の方を手伝うと、すごく喜んでくれたので、困っている人がいたら、手伝おうと思いました。

「子供食堂での思い出」

静岡県立三島南高等学校 二年
菅野 倖太郎

夏休み子供食堂のボランティアに行った。自分は卵を炒めたり仕分けをし、また実際に子供や保護者の方に配った。卵を炒めるのは初めてだったが上手にいきうれしかった。子供や保護者の方が喜んでいるのを見て、自分までうれしくなった。

「もう、いらない」

静岡県立三島南高等学校 二年
高木 もも

高一の夏、飲食店でバイトをした。お客様が帰った後の食器下げでいつも思うことがあった。残飯の多さ、つまり食品ロスだ。カフェ等では写真だけで帰る人もいるらしい。いただく命、つくる人の思いを今一度考える、そんな夏だった。

「やまめをさばいて」

静清高等学校 二年
杉山 凪沙

小学生の時に、やまめをさばく体験をしました。生温かい内臓を取り出した時、この魚は数秒前まで川で泳いで生きていたのだと実感しました。

この体験を通して、私達人間は様々な命を頂いて生きているのだと改めて感じました。

「守ってくれたこれから」

静清高等学校 二年
森 恋花

私は昔、宮城に住んでいた。あの大地震の時もそうだ。小さすぎて記憶には残っていない。けれど、母が私を守ってくれなかったら今の私はいなかったかもしれない。私を守ってくれて、たくさんの人に出逢わせてくれてありがとう。

「命を救うためにできること」

静清高等学校 二年
武井 銀士

今日も聞こえる、
「もう食べられないから残そう。」
という声。

この声を聞くたび、「世界中で飢餓に苦しむ人々が居るのに。」と思ってしまう。

フードロスを減らそう。世界のために、救える命のために。

優秀賞

「自信は自分の成長から」

静岡県立島田商業高等学校 一年
秋野 帆香

私は、まだ自信を持てるほど成長していない。これからたくさん成長して自信の持てる人になりたい。何か一つのことを貫き、それをやり遂げた時、人は自信がつく。その自信は自分自身の成長によるものだ。

「熱中症」

静岡県立浜松大平台高等学校 二年
山本 姫星

幼い頃、母と一緒に学童から帰っている時、熱中症で倒れている人を見つけた。看護師の母はすぐに応急処置をして救急車を呼んだ。

その時、母の手助けをしていて人の命を救っている姿に憧れを持ち、その憧れは看護師になるという夢へ変わった。

「できるって楽しい」

静岡県立浜松大平台高等学校 一年
溝田 こころ

私は、五月からバイトをしています。何も分からず何もできない初めは楽しくないし大変だから辞めたいと思っていました。ですが、初めてのことでも苦手なことでも挑戦してみて一度失敗してもまた挑戦し、できるって楽しいなと感じました。

「夢幻泡影」

静岡県立浜松大平台高等学校 三年
牧野 琴羽

もしも永遠の命があるのなら、人は幸せになれるのだろうか。祖母が亡くなった時、ふとそんなことを思った。

今になってその答えがわかった気がする。

人は限られた時間の中で強く生きるからこそ美しく、幸せだと笑えるのだろう。

「卒業」

静岡県立浜名高等学校 三年
渡部 里菜

私の高校生活はマスクと共に始まった。マスクをしていると心なしか会話も弾まないし、みんなの笑顔も見えない。多くの命を救ってくれたマスクに感謝と共に卒業しよう。みんなの笑顔がみたいから。

「私の誕生日」

浜松日体高等学校 一年
浅沼 桃花

毎年やってくる誕生日は、みんなからたくさん祝ってもらえて嬉しい日。しかし今年の誕生日は違った。ロシアがウクライナ侵攻を始めてから丸一年。誕生日としての日でもあり、命・平和の大切さについても考える日となった。

有功会支会長賞

※この賞は、支会が独自に表彰するものです。

三島市支会

「勇気と行動」

静岡県立三島南高等学校 二年
前島 彩乃

ある日、電車が緊急停車した。電気が止まり暗く暑い中、一人の女性が貧血で座り込んでしまった。私はすぐに席を替わり、扇子で仰いだり、貧血の治し方について調べた。その後体調が戻った女性を見て勇気を出し、行動して良かったと思った。

御前崎市支会

「いきものかん」

御前崎市立御前崎小学校 四年
山下 聡介

ぼくたちの学校は海が近くにあります。そこでぼくにできそうなことを考えました。ぼくにはできることはそんなにないけど海のごみひろいならできると思って海にいくついでにしました。いい気分ですっきりしました。こんどもやってすっきりしたいです。

支部長賞（小学生）

「私の宝物」

藤枝市立藤枝中央小学校 五年　望月 麻央

私のお母さんは一ケ月前から入院中です。おなかには、赤ちゃんがいます。赤ちゃんは、もうすぐ生まれてきても大丈夫な大きさになるみたいです。でも、お母さんがたくさん動くと、赤ちゃんが早く生まれてきてしまうから、お母さんは病院のベッドから動けません。コロナのえいきょうで、小学生の私と妹は、お見まいに行けません。すごくさみしいです。

お母さんのいない生活は、とても大変だけど、お父さんが仕事と家事をやってがんばっています。近くに住んでるおじいちゃん、おばあちゃんもいろいろ手伝ってくれています。お母さんが少しでも安心できるように、みんなで協力してがんばっています。私も妹も出来る事は、お手伝いしています。

でも、夜になると急にさみしくなって、ねる事が出来ません。妹が大泣きして、私も泣きたいけど、妹をなぐさめます。お母さんにメールでその事を伝えると、

「ママもさみしいよ。みんなに会いたいよ。でも、もう少しみんなでが

んばろうね。かわいい赤ちゃんつれて帰るからね。」

と、返事がきました。すごくさみしいけど、お母さんと赤ちゃんのために、もう少しがんばろうと思いました。だって、私には妹とお父さんが側についているけど、お母さんは、家族に会えずに、もっとさみしい思いをしてるはずです。

お母さんは入院する前に、私達姉妹が生まれた時の事を話してくれました。出産をするという事がどんなに大変なのか、私と妹、おなかの中の赤ちゃんは、自分の命よりも大切な宝物なんだよ。と教えてくれました。

「ママの宝物なんだから、病気やけが、事こに気をつけて、いつも笑顔でいてね。」

と、言ってくれました。私の宝物は、もうすぐ五人になる家族です。五人いっしょに笑顔でいられる様に、今日もお手伝いをがんばります。

そして今から、おばあちゃんに病院のちゅう車場まで連れて行ってもらいます。4階の窓から小さく見えるお母さんに、手をふるためです。

「がんばれママ、がんばれ赤ちゃん。お姉ちゃんは早く会いたいけど、もう少しおなかの中にいるんだよ。待っているからね。」

支部長賞（中学生）

「私だからこそできること」

静岡市立清水第五中学校二年　須藤　美結

私には、四歳離れた兄がいる。兄は知的障害があり、私が物心ついたときから色々な特性があった。

音に対する敏感さがあり、雷や花火の音をきくと泣いて騒いだり、外出すると勝手にどこかへ行ってしまって迷子になり、せっかくでかけても探す時間が大半になって困った。他にも、変化に対して強い不安感をもつせいでこだわりがあり、ドアの開け閉めを繰り返したせいで、私の手を挟んでしまったこともあった。決まった道順で帰らないと嫌がって癇癪をおこしたりと、正直兄のことは好きではなかった。また、兄は特別支援学級に在籍していたが、同じ小学校だったため、同級生にからかわれたり、恥ずかしい思いをしてきた。仕方のないことだとわかっていても、つい言いすぎてしまい、辛くて泣いたのもよく覚えている。中学生になった今でも、兄のことについて聞かれると言いにくくて、誤魔化してしまう自分がいる。人目を気にしたり、わがままを言いづらくて、日常的に「どうしてこうなのだろう」と思うことが度々ある。

そんな兄も、来年は就職を迎える年になった。そこで私はふと

思う。人間は、普通に生まれると思っていたが実際兄は違っていた。しかし、十年以上生活を共にし、他人には経験できない貴重な体験をしてきたのだ。理解している人と関わっているときは兄は成長し、逆にあまり理解されていない人の場合は、成長が止まった。そんな苦労もあった兄だが、みんなと同じように学校に通って、多くの人々の支援をもらい、保育園、小学校、中学校そして高校に通い、来年には就職できるほどに成長したのだ。大変な思いをして温かい目で協力してくれた人や、兄の努力もあって、良い方向に繋がっていったのだと感じられた。

実際、中学校ではふざけている人を見て、「障害者だ」と言っている生徒がいた。さらに、この言葉を聞いた人は注意するどころか一緒に笑っていたり、黙ったままだった。まだまだ身近には、そういった偏見をもち、心無いことを言ってしまう人がいるのだなと感じられた。だからこそ私は、そんな人を少しでもなくしたい。そして、偏見を言っている人にしっかり注意できるようにもなってほしい。相手の立場に立って行動でき、人の気持ちを理解できる人を育て、増やしていきたい。障害を持っている人も、障害を持っていない人も同じように毎日楽しく過ごせる世の中にできるよう願っている。将来、教育関係の仕事について、本気で一人ひとりのことを思って接していき、成長をサポートしたい。貴重な体験をしてきた私だからこそできることなのだ。

指導者協議会長賞（小学生）

「大切な家族」

焼津市立焼津南小学校 四年　鈴木 理仁

ぼくの家には、二年半前までおばあちゃんワンコがいました。名前はバニラです。ぼくが生まれる前から家にいました。ぼくが一才の時までバニラの先ぱいワンコのアリエルもいましたが、あまり覚えていません。でもバニラのことは、よく覚えています。クリーム色のモフモフとしたミニチュアダックスフンドで、鼻が長くて目がクリクリで、とてもぼくに甘えてくるかわいい子でした。コロナ禍でどこにも出かけられなかった時、だれもいない海によくいっしょに行きました。

バニラは、ぼくがようち園の時に骨のガンになって、左の足を切だんしました。病院の先生は、足を切っても長く生きられないと言ったけど、二年がんばって生きました。三本の足でも自分でがんばって歩きました。

たまにけいれんが起きるようになりました。ひっくり返って足をバタバタして、あわが口からいっぱい出て、何分かもがきます。その時い外は、いつも通りぼくのイスの下でゴロゴロしたり、元気にすごしていました。

ぼくが二年生になると、けいれんすることが多くなりました。

ぼくたちは三階でねていて、バニラは二階のリビングでねていたけど、心配になってふとんを買いに行ってぼくたちもリビングでいっしょにねることにしました。いつも起きるとぼくの頭の上に鼻をおいてぼくが起きるのをまっていました。

冬になってけいれんがどんどん増えました。その時ぼくがコロナの濃厚接触者になって、家族全員家から出れなくなりました。ひさしぶりに家族全員で家でゆっくりすごすことができました。あたたかい日にベランダに出ていっしょに日なたぼっこをしてたくさんなでてあげました。

次の日起きていつも通りバニラに声をかけると、とても弱っていたけどねているみたいに息をしていました。体をさわると起きたので、お母さんが水をあげました。少しペロッとしました。家族全員起きてきて、楽しく話していたら、

「ンー!!」

と聞こえて、みんなでバニラを見ると、息をしていませんでした。

お母さんが、

「きっと、みんなが起きてくるのを待っていてくれたんだね。」

と言いました。

最後の一週間、外に出れなくなったのも、きっとバニラがいっしょにいる時間を作ってくれたんだと思います。

すごくかなしかったけど、今もバニラが見守ってくれているので、ぼくは色んなことにちょうせんしていきます。

指導者協議会長賞（中学生）

「素敵な仲間に恩返し」

掛川市立大浜中学校 一年　松下 徹心

僕は思い切って生徒会の副会長に立候補した。小学校とは違い、本格的な選挙により選出される。

入学前から、中学校で、生徒会をやってみたい、という思いはあったが、初めての中学校生活を過ごす一学期の中でさらにその思いは強くなった。しかし、ある日、「中学の選挙は人気投票だからね～」と友達に言われた。友達が凄く多いわけではなかった僕は、そんな自分が、当選できるのだろうか…不安になり、立候補するかどうか、もう一度考えた。しかし、僕の思いは変わらなかった。

なぜ立候補したかったのか、という原点に戻ったとき、もはや立候補しないという選択肢はなかった。潮風祭（体育祭）で実行委員の経験から学校を引っ張っていく、生徒が主体になって取り組む素晴らしさを感じ、自分もその一員になりたいと思った。そして、僕にはもう一つ大きな思いがあった。それは、学級全員が揃う日を心待ちにしていることだ。

僕が掲げた公約の中に「誰もが安心して過ごせる学校」というものがある。その言葉の中には、演説などで語ることのできない思いが詰まっている。

僕の大切な友達は様々な理由があり、学校に来ることができ

ずにいる。僕はその子のことを忘れたことなど一度もない。今日は来られるかな、明日はどうかな、と次の予定を送ったり、宿題を伝えたりした。

僕はいつも大切なクラスの友達が、みんな揃う日を心待ちにしている。僕が生徒会の一員になったら解決するということではないかもしれない。でも、できることは何かあるはず！と強く思う。そんな思いが、僕の背中を押し、勇気をくれた。

そして選挙運動期間に入った。案の定、他の立候補者の周りには、二十人位の応援者がいたが、僕には三人だった。しかしその三人は選挙当日まで絶対に僕からは離れず、ずっと隣で応援してくれた。三人で二十人分の声を出そう！と声がかれるまで応援してくれた。すると選挙運動で、自分の思いを伝えていくうちに、初めて話す友達や先輩から「徹心の公約に共感したよ」「応援しているよ」「頑張ってね」と声をかけてもらえるようになった。僕はそのとき、人や学校の力になりたいと立候補したのに、今は僕がみんなに支えてもらっている、と涙があふれてきた。

選挙当日の立会演説では、一人一人の目を見て思いを伝えると、うなづいて聴いてくれ、温かな拍手もいただいた。

副会長になることができた今、選挙期間の中で、学んだこと、新たな思いは沢山ある。

僕はこれから、支えてくれたみんなに恩返しをする気持ちで、全力でこの役目を果たしていきたい。そしてクラス全員が揃う日を楽しみにしている。

有功会長賞（小学生）

「命のストーリー」

浜松市立伎倍小学校 六年　坂巻 樹

「命」とは、誰の命だとしても大切です。それを思わせてくれたのは、ぼくの弟です。

ある日突然、お母さんのお腹に赤ちゃんがいる、と言われました。おどろきと、わくわくの気持ちで心がいっぱいになりました。最初は少し太っただけだと思っていました。ですが、どんどん大きくなるお腹を見て本当にいるということが分かりました。そして弟がお腹の中から蹴っていて、生きているんだなと思いました。そこでぼくはふざけてお母さんのまねをしました。服の中にボールを入れて大きいお腹のようにしました。ぼくはうれしくてそんなことをしていました。二〇二一年八月三日、家で遊んでいると、突然お母さんが言いました。

「やばい！破水したかも！」

破水とは、赤ちゃんがもう少しで産まれる合図みたいなものです。そして急いでタクシーを呼びました。ぼくはそのとき、すごく不安でした。病院に着くと、本当に破水だったということが分かりました。それで入院することになりました。まだ産まれないと言われ、お母さんだけ、病院に残ってお父さんと妹とぼくで家に帰ることになりました。ぼくは悲しい気持ちになりました。泣きな

がらお別れしました。そして次の日、いつものようにぼくは学童へ、妹は保育園に行きました。ぼくは破水のことなんかすっかり忘れてボウリング大会を楽しんでいました。すると、お父さんの車がやってきました。ぼくは、こんなに早くむかえがきただけで、もう産まれそうなんだ、と悟りました。ぼくはすぐに車に乗りました。ぼくが車に乗ったすぐに、病院から電話がかかってきました。お父さんは運転しているのでぼくが取りました。もう産まれるのに間に合わないと思うので、ビデオ電話にしますと言われ、ぼくはビデオを見ていました。お母さんは寝転がって割とふつうにしていました。話も少ししました。学童で作ったうちわで応えんしました。がんばれ！がんばれ！病院に着いたらビデオ電話をしながら走って行きました。なんと、まるで弟が待っていてくれたかのようにまだ産まれていませんでした。すると赤ちゃんの頭が出てきました。そして全部出てきました。元気な泣き声とともに小さな弟がぶじに産まれてきました。ぼくはホッとしてとてもうれしかったです。

もうあの時から二年が経ちました。弟はすっかり大きくなり、もう歩けるようになったし、家族の名前など色々な言葉をどんどんしゃべれるようになっていっています。誰の命にもたくさん物語がつまっています。ぼくは、弟だけではなく、たくさんの人の命を大切に、そして尊いものだと思える、そんな人間に、ぼくはなりたい。

有功会長賞（中学生）

「誰かのために」

静岡市立清水第五中学校 二年　遠藤 駿之介

僕の住んでいる家の近所に、道路の清掃を毎回してくれている、堀さんという人がいます。僕の住んでいる地域には世界遺産があるので、それをきれいにしようと、堀さんは清掃を毎回してくれているのだと思います。堀さんはだいたい土曜日と日曜日の週に二回清掃します。

僕が堀さんに、

「こんにちは。それって、自分のためにしているんですか。」

と聞くと、堀さんは

「自分のためじゃなくて、誰かのためにやっているんだよ。」

と、答えます。そのとき、僕は「誰かのため」って、誰だろうと疑問に思いました。

そんなある日のこと、ふと見ると道路で清掃をしている堀さんの姿がありません。その次の日もいなかったので、「いつもいるのにおかしいな。」と思った僕は、母に聞いてみました。すると、母から思わぬ言葉が飛び出しました。

「堀さん、この前倒れたそうだよ。」
僕は、電気のような衝撃が走りました。幸い命に別状はなく、二週間ほどの入院で治るそうで、ホッとしました。
しかし、考えてしまったのは、堀さんが帰ってきたとき道がきれいでなく、雑草がたくさん生えている道だったらどんなに悲しむか、どんなにがっかりするか。僕はきっと悲しむだろうと思い、それがきっかけで掃除をはじめました。はじめは、僕一人で清掃していましたが、父や近所の人たちのおかげで、道はみるみるきれいになっていきました。
堀さんが帰ってくる当日、堀さんは満面の笑みで、僕に
「ありがとう、ありがとう。」
と、何度も言ってくれました。
そして、堀さんの口ぐせの「自分のためではなく、誰かのためにやっているんだよ。」という言葉の意味がようやく分かったような気がして、それ以来、僕は道路で毎週、堀さんと掃除をしています。「誰かのため」に。

事務局長賞（小学生）

「だれかのために、自分ができること」

浜松市立伎倍小学校 二年　佐々木 杏

だれかのために、自分ができることは、友だちには、べんきょう、スポーツを教えてあげることだと思います。

じいじ、ばあばには、おもたいものを、もってあげることが、じいじ、ばあばに、自分ができることだと思います。

お父さんと、お母さんには、おふろそうじなどの、お手つだいを、やることがためになることだと思います。

しらない人たちには、道をゆずってあげたり、おなかの大きな女の人や、大けがをした人、お年よりに、電車のせきをゆずってあげたり、何かをしてあげたり、お手つだいをしてあげたりすることが、だれかのやくにたったり、だれかのためになることだと思います。

わたしは、まだ子どもで、小さいことしかできないけど、いつか大きなこともやれるようになりたいです。

おいしゃさんになってだれかのいのちをたすけることができるようになりたいです。

でも、小さなことでも、大切なことがあるんじゃないかなときづきました。

小さなことでも、たくさんの人がよろこんでくれるんじゃないかなと思います。

ひとつの小さなことでも、だれかが、よろこんでくれるなら、わたしは、がんばります。

たとえば、ごはんをのこさず食べたり、きれいに食べることで、のうかさんや、りょうしさんがよろこんでくれます。

自分のへやを、せいりせいとんすることで、むだなものがふえずに、ごみがへって、ちきゅうがきれいになります。

こうやって、小さなできることが、大きなことになってひろがっていくとよいです。

自分は、自分のできることをやりながら、こんなことを、そうぞうして、小さなことをがんばります。

事務局長賞（中学生）

「私の大切な家族」

静岡県西遠女子学園中学校二年　鈴木 杏

私の家では半年前に子犬が新しい家族になりました。学校から帰ってきたら、子犬が小さなしっぽを振って迎えてくれました。言葉が出ないほど驚きました。その時は自分の家に小さな犬がいることが不思議で、これからしっかり世話をすることができるか不安でした。しかし今では私の大切な妹です。

ペットを飼う私たちは、命を大切にし、責任をもって育てなければいけません。しかし人間の勝手で行き場を失った犬や猫がたくさんいます。例えば二〇二一年度の殺処分数は犬が約三千匹、猫が約一万一千匹で犬猫あわせて約一万四千匹が命をおとしています。このような犬や猫がいるのは家族として迎えた動物を簡単に手放す人がいる・単身者や高齢者が世話をすることが不可能になった・過剰な多頭飼育により飼育することが困難となったということが原因だと考えられます。このように増え続ける犬、猫を飼い主が適正に飼育できなくなってしまった状態を多頭飼育崩壊といいます。私は以前テレビでこの状態をみたことがありますが、人間を信

頼していなくて、飼い主から愛情を受けずに育ってきたんだろうなと感じるような、ひどい環境で生きていました。家具のうしろから出てくる子、おびえてケージから出てこない子、近づいてくる人間に威嚇するような子もいました。また、野良猫や野良犬にエサを与える行為も問題となっています。これを知り、道徳の授業で習ったくまの話を思い出しました。それは人間がくまにソーセージを与えたことによって食べ物を目的に現れるようになり殺されてしまったという内容でした。

このようなことから、失われないはずのたくさんの命が殺されてしまうのは私たち人間に原因があると思います。ペットを飼うときには環境を整える、軽い気持ちで飼わないということを忘れてはいけないと思います。そして家族と話し合い、全員のペットを迎える心の準備が必要だと思います。

ペットを飼うことは命を迎えることなのでもののように扱い、いらなくなったら捨てるということは絶対にしてはいけません。自分の命も簡単に終わらせてはいけません。命はほかのものにかえることはできない尊いものなので人間や動物など、この世界に生きている全ての命を大切にするべきだと考えます。一人一人が、命とはどれほど大切なものか、真剣に考えればもっと多くの命が救われると私は信じています。そして私の家族、出会ったばかりの妹の命を大切にしたいです。

優秀賞

静岡サレジオ小学校　三年　岡崎 右京

焼津市立焼津南小学校　一年　川口 陽向汰

焼津市立港小学校　四年　加藤 莉央

浜松市立赤佐小学校　六年　松井 美海

静岡市立清水第五中学校　一年　大瀧 悠心

静岡市立清水第五中学校　二年　井上 七桜

静岡県西遠女子学園中学校　二年　袴田 歩佑

静岡県西遠女子学園中学校　二年　小池 穂花

不二聖心女子学院高等学校　一年　二村 葵

ハートラちゃんのお絵かき部門

ハートラちゃん賞

静岡若葉幼稚園 年長
吉野 日陽

静岡若葉幼稚園 年長
今 咲梛

静岡若葉幼稚園 年長
安川 真礼

ハートラちゃん賞

小百合キンダーホーム 年長
鈴木 美緒

小百合キンダーホーム 年中
西原 由香理

小百合キンダーホーム 年長
藤中 瑛大

小百合キンダーホーム 年中
浜田 蒼真

ハートラちゃん賞

焼津豊田幼稚園 年中
廣澤 柊花

焼津豊田幼稚園 年中
荒井 侑

焼津豊田幼稚園 年中
上原 鈴華

審査にご協力いただいた選考委員

選考委員

佐野　正子　焼津豊田幼稚園 園長
宮城島 全美　静岡若葉幼稚園 副園長
三室　隆　三島市立中郷小学校 校長
市川　智恵　富士市立吉原第二中学校 主幹教諭
奥村　康之　静岡市立長田東小学校 校長
久保田 良子　静岡市立清水興津小学校 校長
石川　晃　浜松市立北浜小学校 教諭
栗田　享承　浜松市立赤佐小学校 教諭
大石　裕治　静岡県立相良高等学校 教頭
増井 勝彦　静岡県青少年赤十字賛助奉仕団

総評

本年度は、各学校で五類感染症(新型コロナウイルス感染症)とインフルエンザが流行する中での募集でしたが、作品応募数二八一五点と昨年度より多くの応募がありました。

一〇〇文字作文(短作文)、作文の部門では、兄弟・姉妹の誕生や祖父母の死を通して「いのち」をつなぐことの意義やさらに日常生活の中で家族との「絆」の大切さに気づかされたこと。未だに世界で起こっているウクライナなどでの紛争・戦争についての憤りやおもい、募金活動等を通しての国際理解や福祉についてのこと。ごみ拾い・海岸清掃活動への参加などボランティア活動のこと。等々、テーマに沿った作品が数多く寄せられました。

お絵かき部門では、絵本「ハートラちゃんのおはなし」を通じて、ハートラちゃんと自分とが仲良く遊ぶ姿を描く作品が多く寄せられました。また、中には、困っている仲間への手助けを描く作品もありました。自分やハートラちゃんの表情を明るく豊かに描く作品が多くみられました。

これからも自分の内面を見つめたり、様々なことを体験して感じたことや考えたことを表現したりしてみてください。さらに実行に移していくことを期待しています。

Profile

日本赤十字社公式マスコットキャラクターの
「**ハートラちゃん**」です。

■名前
ハートラちゃん　Heartora-chan

■住んでいるところ
ハートランドの森

■誕生日
5月8日

■性格
苦しんでいる人を放っておけない。
おだやかな性格だが、時に素晴らしい行動力を発揮する。

■目標
ひとりでも多くの「苦しんでいる人」を救うこと。

■特技
語学（世界中の人、動物、植物と話せる）。

■トレードマーク
生まれつきおでこにある赤い十字の模様。

■好きなこと
風船ブランコに乗って空をお散歩すること。

■好きな食べもの
ハート形のさくらんぼ

■心の友
ハトのハートちゃん

日本赤十字社　静岡県支部
Japanese Red Cross Society
〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17　TEL 054-252-8131　FAX 054-254-5830

Cross you!
この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。